

広瀬神社

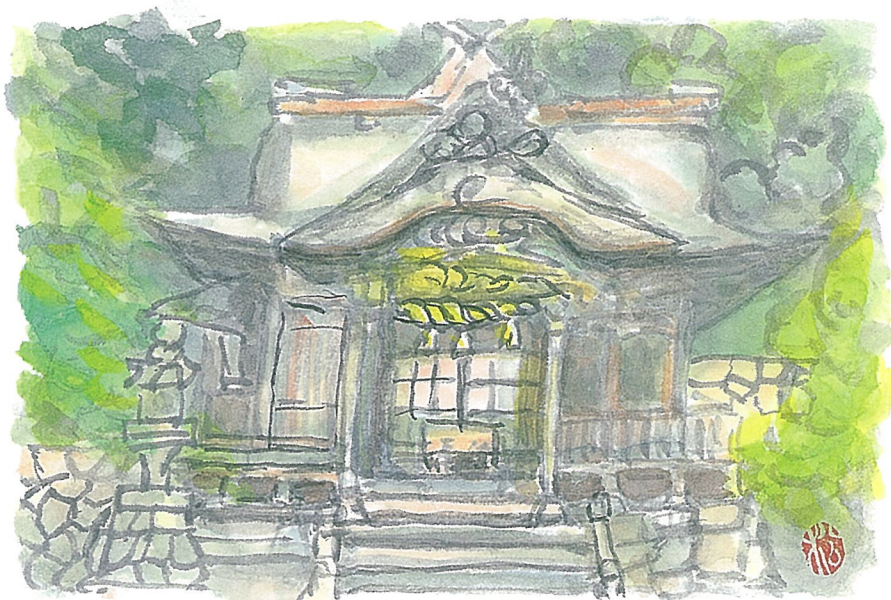
(広瀬)

祭神 菊理媛命外五柱 例祭日 四月二十三日

日本の三名山の一つ、^{はくさん}白山を御神体（奥宮）とする加賀の国一の宮である
^{しろやま ひめ}白山比咩神社（本宮）（現石川県白山市）から^{かんじょう}勧請した神社で、古くから広瀬の権現さんとして知られ親しまれてきた。勧請時期は不明であるが白山権現又は白山大明神と呼ばれて神仏習合の社であった。

元は広瀬村の^{しも}下の
方の山端にあったと
言われ、元禄5年
(1692) 3月23日現
在地に^{※せんざ}遷座された。

神社の近くには、
白山という^{あざめい}字名もあり、加賀の白山との
結びつきが考えられ
る。明治元年神社改
めで広瀬社となり、
後に現在の社号は広瀬神社となっている。



広瀬神社拝殿正面

祭神は、^{たかみむすびのみこと}高皇産霊神、^{いざなみのみこと}伊邪那美尊、^{きくり ひめのみこと}菊理媛命、^{おおなむちのみこと}大己貴命、^{うかのみたまのみこと}倉稻魂命、^{くくのちのみこと}句々廻馳命をお祀りしている。

その昔、神仏習合であった名残が鳥居や梵鐘に見られる。梵鐘については、文化元年（1804）に^{いなお}釣鐘鑄直しの文書があるが、所在は不明である。病（^{せん}疝氣）に御利益がある神さんとして知られ、近郷近在、遠くは由良、八橋、赤碓あたりから歩いて、参拝者が絶えなかったと言われている。

（出典：『ふるさと大宮抄誌』）

（注）

遷座：神仏の座を他所にうつすこと